

令和4年度
 県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について

学校教育課通信

令和5年3月14日(火) 第186号

編集・発行: 県南教育事務所 鈴木 正和

令和4年度末の調査結果及び本年度の取組等から、県南域内の幼稚園・小・中学校の評価数値と共に、成果と課題を下記に記載しました。自校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。調査へのご協力ありがとうございました。(○成果 ▲課題(今後に向けて))

1 資質・能力の育成と学力向上 (数値目標3.5)		中間評価平均			最終評価平均		
		幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1)	①	ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映している。	3.1	2.9	3.5	3.2	
	②	情報活用能力(情報モラルを含む)の育成について、教科横断的な視点で取り組み、評価と改善を行っている。	3.0	3.1	3.1	3.1	
(2)	③	ふくしまの「授業スタンダード」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業の工夫・改善に取り組んでいる。	3.4	3.1	3.5	3.2	
	④	児童生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、まとめと振り返りの時間の充実を図っている。	3.3	3.0	3.5	3.2	
(3)	⑤	児童生徒が互いに認め合い、高め合う学習集団づくりに取り組んでいる。	3.3	3.2	3.4	3.4	
	⑥	各種調査の結果を活用して非認知能力等の分析を行い、その結果をもとに、望ましい学習習慣、生活習慣の確立に取り組んでいる。	3.0	2.7	3.3	3.1	
	⑦	自己マネジメントの育成と家庭学習の質的向上に向け、学校としての指導方針を明確にし、ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用している。	3.1	2.7	3.3	3.0	

成果と課題
 ○ほとんどの質問で、小・中ともに評価が向上しました。特に、質問①(ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査の結果分析)に関しては、評価が大きく向上しました。記述回答からは、学校独自で学習への取組に関する調査を行ったと回答した学校がありました。多面的・多角的に児童生徒の実態を把握し、その結果を指導の改善に活かす取組が、多くの学校で確立されているところと受け止めます。次年度に向けて、どの時期に、どのような方法で分析するのかを、さらに意図的・計画的に設定したいところです。

▲評価の向上が見られなかった、もしくはわずかな向上にとどまった質問として質問②(情報活用能力の育成)が挙げられます。一人一台端末が整備された昨年度から継続して研修等が行われたことで、多くの学校で、児童生徒および教員のICT活用能力は高まっているものと推察します。今後は、より効果的な活用のあり方について、さらに研修が進められるものと思います。その際、情報活用能力を体系的に整理し、発達段階に応じた育成の目安を共有したり、教科横断的な視点で育成したりできるよう、組織的な取組が重要となります。

2 生徒指導と道徳教育の充実 (数値目標3.5)		中間評価平均			最終評価平均		
		幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1)	①	不登校児童生徒を新たに出不さないように予防に努めるとともに、不登校児童生徒に対しては個別の支援計画を作成し、組織的に対応している。	3.4	3.1	3.4	3.1	
	②	いじめの未然防止、見逃しゼロに向けた組織的な対応と児童生徒一人一人が主体となって活躍できる魅力的な学校・学級づくりに努めている。	3.4	3.3	3.6	3.5	
	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関と連携し組織的に対応している。	3.5	3.6	3.6	3.6	
(2)	④	重点的に指導する内容項目について家庭・地域と共有し、学校・家庭・地域と一体となった道徳教育を推進している。	2.9	2.7	3.0	2.8	

成果と課題
 ○いじめの未然防止や関係機関との連携について、1年間を通して高い評価となりました。いじめの積極的な認知や、日頃から組織的な対応を行うための校内体制整備が進められているものと考えます。次年度に向けて、校内体制やチェック体制を見直し、改善すべきものは改善を図りましょう。

▲不登校児童生徒に対する支援については、多くの学校で組織的な対応がなされており、記述回答では、チーム体制を組み復帰につながった事例や、学習機会の確保のためにICTを活用した事例が挙げられました。一方で、不登校児童生徒数の増加が続いていることから、新規の不登校を出不さない取組について、各学校の実態に即したものと見直しを図り、進学・進級時の環境変化に対応できるように、新年度に向けた準備をお願いします。

▲道徳教育については、家庭や地域と一体となった推進を課題と考える学校が多くあります。学校だよりや学年・学級通信において、道徳教育の方針や重点的に扱う内容項目について紹介することや、地域の協力をいただいて実施する学校行事等の機会を生かして、その行事と関連のある道徳的諸価値についてお知らせすることなど、家庭や地域の方々に道徳教育について知ってもらうことから始めてみましょう。

3 健康マネジメント能力の育成 (数値目標3.5)		中間評価平均			最終評価平均			
		幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	
(1)	①	【幼稚園】「幼児期運動指針」を踏まえ、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を生活全体の中で確保している。 【小・中学校】「ふくしまっ子児童期運動指針」(小)や「体力向上推進計画書」を踏まえながら、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	3.3	3.1	2.7	3.3	3.5	3.1
(2)	②	【幼稚園】園全体で組織的に食育に取り組んでいる。 【小・中学校】「食育全体計画」に基づき、組織的に食育に取組、食育の授業を実践している。	3.3	3.6	3.2	3.4	3.6	3.4
(3)	③	自分手帳を活用し、自分の健康状態を把握している。	3.3	3.1	3.4	3.5		

成果と課題
 ○すべての質問において、評価が下がった質問はありませんでした。特に、小中学校の質問①、全職員で共通理解を図った取組についての評価が大きく向上しました。記述回答からは、独自の取組を挙げている学校が多く見られました。また、幼稚園の質問①記述回答からは、幼児が意欲的に取り組めるようにする工夫や環境づくりの工夫が挙げられており、幼児・児童・生徒の実態に応じて充実した取組が、多くの学校、園で行われています。今年度の取組の成果と課題を整理し、次年度のさらに充実した取組につなげていきましょう。

○自分手帳の活用についても、共通理解が図られており、評価が向上しています。自校の健康課題改善の手段として、活用場面を年間計画に明記するなどして、有効に活用していきましょう。

4 特別支援教育の充実（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1)	多様な学びの場の充実・整備の推進	① 障がいのあるなしに関わらず、児童生徒（幼児）が互いを認め合い、学び合える交流及び共同学習を目指し、個別の教育支援計画等を活用し、教職員間で指導や支援の方針について共通理解を図りながら取り組んでいる。	3.6	3.5	3.1	3.5	3.6	3.3
		② 地域で共に学び共に生きる教育を目指し、全教職員に特別支援教育の理解を図るための研修や役割に応じた専門性を高めるための研修など、計画的に特別支援教育に関する校内(園内)研修を行っている。	3.5	3.2	3.1	3.2	3.3	3.1
(2)	切れ目のない支援の充実	③ 進級時や進学先へ引き継ぐため、個別の指導計画による指導と評価に基づき、個別の教育支援計画を定期的に評価・改善している。	3.4	3.4	2.9	3.3	3.5	3.0
		④ 要請訪問や特別支援学校のセンターの機能等を活用した支援を積極的に活用し、校内(園内)の特別支援教育の充実に努めている。	3.0	3.4	2.8	3.1	3.4	2.9
成果と課題	○個別の教育支援教育支援計画や個別の指導計画に関する質問に対して、すべての校種で3.0を上回り、中には3.5以上の評価となる校種がありました。個別の教育支援計画の整備が進められていることがわかります。定期的な評価・改善や効果的な活用についての研修を行うことで、特別支援教育のさらなる充実が期待できます。							
	▲一方で、特別支援教育に関する研修に対する評価は、校種によって差があります。学校によっては記述回答において、特別支援教育コーディネーターが中心となって校内研修の充実を図ったり、組織的な関わりを行ったことで支援が必要な児童生徒の充実感につながったりしたことを成果として挙げています。生徒指導と同様、次年度に向けて校内体制の見直しを図り、改善した上で新年度のスタートにつなげましょう。							

5 学校教育を支える基盤の確立（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1)	教職員の勤務・勤務の確立と適正な人事管理	① 教職員人事評価について、全教職員が理解し、適切に運用している。	3.6	3.6	3.5	3.6	3.7	3.8
		② 教職員組織を生かして働き方改革を推進し、職場環境の改善に努めている。	3.1	3.3	3.1	3.0	3.6	3.3
(2)	学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③ 校内服務倫理委員会に、工夫改善を加え、効果的な取組としている。	/	3.4	3.0	/	3.5	3.4
		④ 「信頼される学校づくりを職場の力で」を活用している。	/	3.7	3.5	/	3.7	3.7
(3)	地域と共にある学校づくりと関係機関との連携強化	⑤ 地域住民・保護者が、学校(園)の経営方針について理解できるよう広報に努めている。	3.2	3.5	3.2	3.3	3.6	3.5
		⑥ 学校評価を適切に行い、その結果を公表している。	3.7	3.5	3.2	3.8	3.8	3.7
		⑦ 学校運営協議会等による学校、保護者、地域の連携促進に努めている。	3.6	3.5	3.3	3.5	3.7	3.4
成果と課題	○すべての評価が3.0を上回り、3.8といった高評価が見られます。特に不祥事の絶無について、すべての教職員が実行できるよう次年度も継続していきましょう。							
	▲やや評価が低い質問として、校内服務倫理委員会の工夫改善が挙げられます。警察から講師を招いたり、地域の方に講師を依頼したりする工夫を記述回答で挙げた学校が見られました。外部の機関や人材を活用することで、自己を見つめ、マンネリ化を防いでいきましょう。							

6 幼児教育の充実と幼小連携の推進（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1)	保育の質の向上	① 園の実態や幼児の発達の実情を踏まえ、育みたい資質・能力を明確にし、一人一人の幼児が幼児期にふさわしい生活や体験を得られるように指導計画の工夫をしている。	3.6	/	/	3.7	/	/
		② 幼児の発達の実情や興味・関心等を踏まえた環境構成や、幼児自らが身近な環境に主体的に関わり試行錯誤したり考えたりすることができるよう援助している。	3.7	/	/	3.6	/	/
		③ 日々の記録やエピソード、写真などを生かして評価を行ったり、複数の教職員で同じ幼児のよさを捉えたりするなど多面的に捉える工夫をしている。	3.5	/	/	3.4	/	/
(2)	幼小連携の取組の推進	④ 幼児と児童の交流の機会や、教員間での意見交換及び合同研修の機会を設けるなど、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有したり、スタートカリキュラムの編成・実施・改善等に取り組んだりしている。	2.9	3.2	/	2.9	3.3	/
学校の成果と課題	○保育の質の向上に関する質問については、高い評価となりました。新型コロナウイルスへの対策を講じながら、さまざまなアイデアを出し合いながら毎日の保育に取り組まれていることが、評価につながっているものと考えます。また、各種訪問からも創意工夫のある取組が行われ、保育や遊びについて深まりのある研修が充実しています。							
	▲幼小連携に関する質問がやや低い評価となりましたが、新型コロナウイルスへの対策を講じながら工夫して行ったり、懇談会で情報共有を行ったりできたことが、記述回答からうかがえました。スタートカリキュラムの編成・実施も進んでいます。引き続き共有や充実・改善を呼びかけていきます。							